



佐川急便の取り組み

2010年3月12日

佐川急便株式会社
総務部 環境推進課
日山 欣也



◆会社概要

佐川急便株式会社 (SAGAWA EXPRESS CO.,LTD.)

本 社 京都市

創 業 1957(昭和32)年3月

従 業 員 数 46,247名

車 両 台 数 26,468台

営 業 所 358営業所

売 上 高 約8,030億円 (2009年3月期)

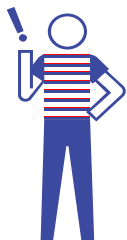


2010年2月度

◆クライメート・セイバーズ・プログラムへの参加

▼WWFとのパートナーシップ

NPO、NGOとのパートナーシップを推進し、温室効果ガス削減を目指す



2003年 クライメート・セイバーズ・プログラムに参加

世界最大の民間自然保護団体であるWWFと、先進的な環境対策を進めている企業が協働して、温室効果ガスの削減を目指す。

※IBM、ジョンソン&ジョンソン、ナイキ等23社が参加(2月現在)



佐川急便は日本企業第1号、物流企業としては世界で唯一の参加

▼削減目標

2012年度までにCO₂総排出量6%削減(2002年度排出レベル比)



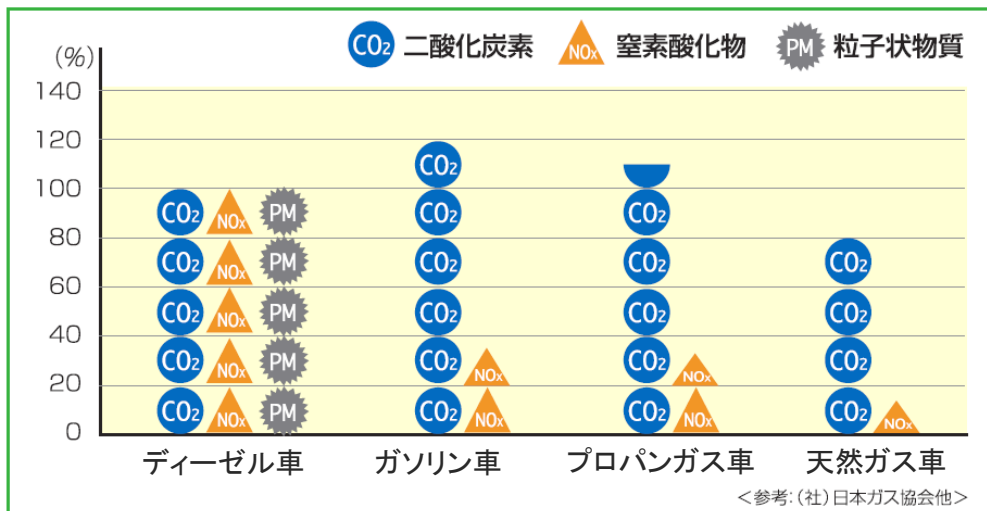
天然ガストラック 累計7,000台の導入を目指す



碳减排先锋
Defensores do Clima
クライメート・セイバーズ
Climate Savers

◆天然ガストラックの導入

▼排気ガス比較(1997年当時)



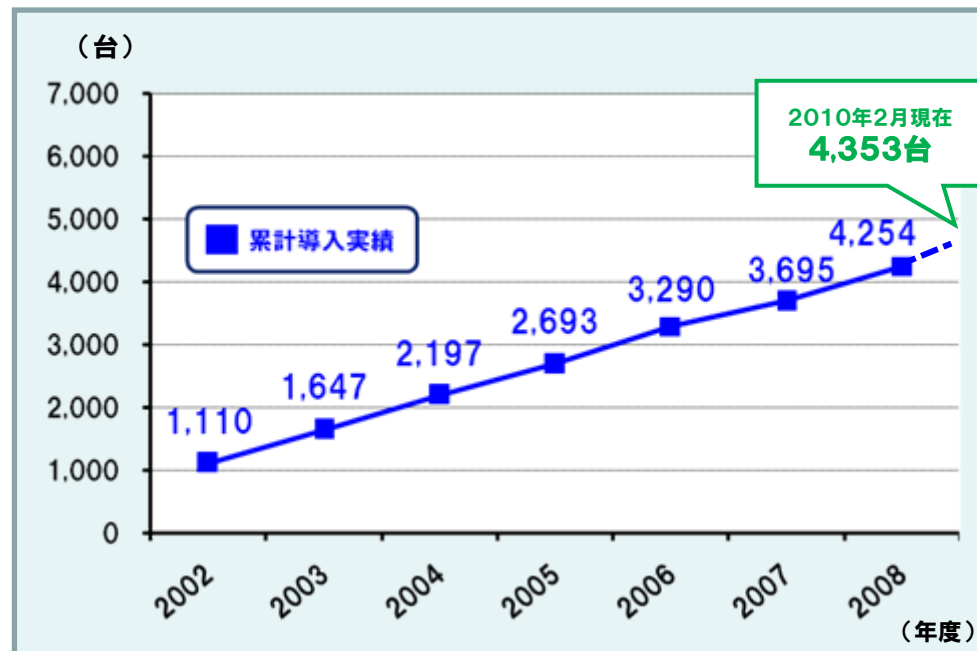
NO_x…Nitrogen Oxide 窒素酸化物(光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)
PM…Particulate Matter 粒子状物質(ぜんそくや気管支炎を引き起こすとされる)

ディーゼル車と比較し、

CO₂ 20%削減
NO_x 90%削減
PM 100%削減



▼天然ガストラック導入実績



2010年2月現在 **4,353台** の天然ガストラックを利用



**日本国内の天然ガストラック
普及台数の約25%**

国内No.1

◆大量導入に向けたインフラ整備

天然ガストラック大量導入促進のためのインフラ整備として自家用天然ガススタンドを積極的に設置



公共のエコ・ステーション
の普及が遅れている

ガソリンスタンド

約42,000カ所



天然ガススタンド

約340カ所

(参考:日本ガス協会 2009.3.31日現在)

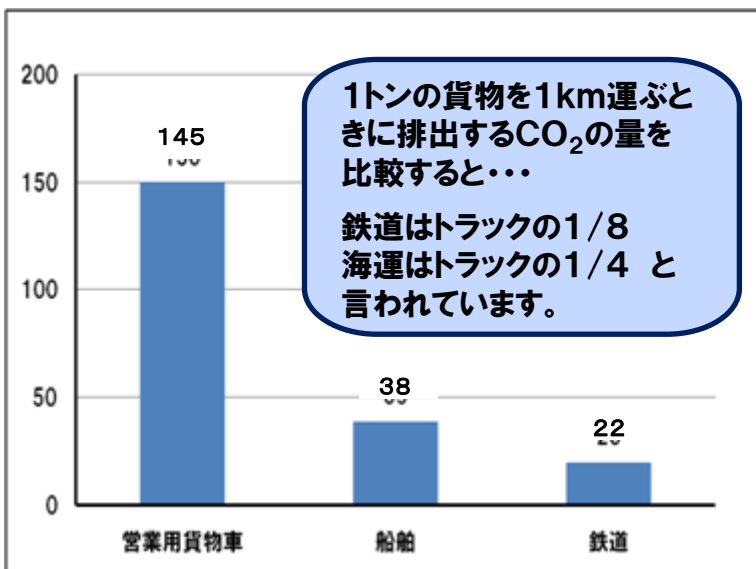
**全国で23カ所の自家用天然ガススタンドを設置し、
天然ガストラックの導入をフォロー**

◆モーダルシフトの推進

▼ モーダルシフトとは？

モーダルシフトとは、貨物や人の輸送手段の転換を図るという意味の言葉です。鉄道や船舶を利用した輸送は、トラック輸送と比較して輸送効率が高く、エネルギー消費を低減させることができます。

【輸送機関別CO₂排出原単位(2007年度)】



出典:国土交通省HP

▼「スーパーレールカーゴ」の活用

- ・幹線物流の環境負荷低減に向けた実証実験認M250系直流貨物電車
- ・東京-大阪間の小口雑貨貨物などの幹線輸送専用コンテナ列車として貸切

東京～大阪間を約6時間で結び、積載量は往復で10tトラック56台分

日本の大動脈であり、環境負荷の大きい東京・大阪間の輸送の約10%を担う



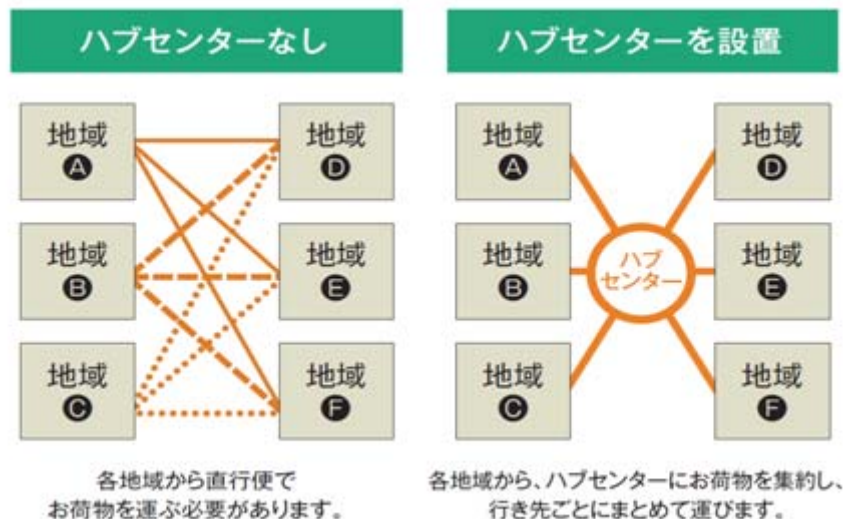
特急コンテナ電車「スーパーレールカーゴ」

【2008年度実績】

	年間減便数 (10トン換算)(台)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
スーパーレールカーゴ	16,232	10,807
鉄道輸送(スーパーレールカーゴ以外)	26,560	39,595
海上輸送(フェリー)	40,170	16,973
合計	82,961	67,375

◆物流の効率化(幹線輸送の取り組み)

▼ハブセンターによる効率化



輸送を支えるネットワークづくりの一環として、大規模なお荷物の集約施設である「ハブセンター」を設置して輸送の効率化を推進

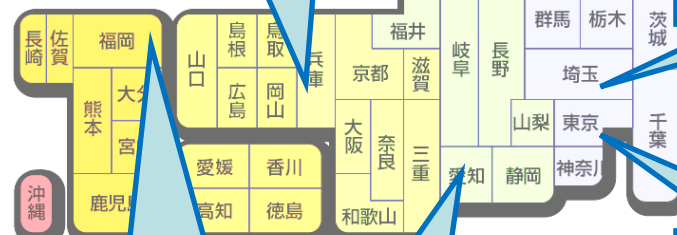


行き先ごとに荷物を仕分けすることで積載率が向上し、トラック使用便数が減少。
輸送回数を減少させることにより環境負荷を低減。

【国内5カ所のハブセンター】



西日本ハブセンター



北九州センター



中部ハブセンター



Tokyoビッグベイ

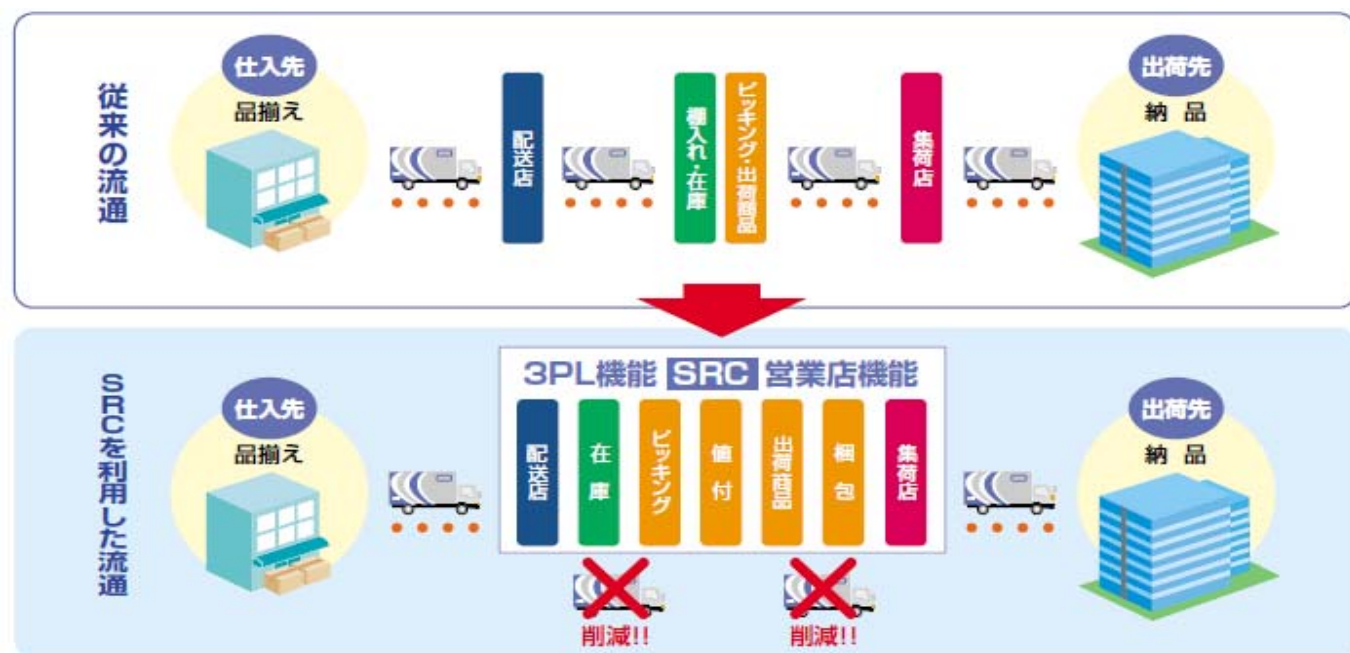


久喜センター

◆物流の効率化(物流センターの取り組み)

▼SRC(佐川流通センター)の活用

物を動かさない物流の実現を果たすため、お客様の商品を入荷、一時保管、検品、値付する物流加工から出荷までをトータルにサポートする、SRC(佐川流通センター)の活用を推進しています。



- ・業者間を輸送することがなく、輸送回数の減少により環境負荷が低減
- ・従来のモデルよりも高度なサービス機能を顧客に提供し、さらに環境負荷を低減させるビジネスモデル

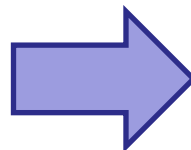


◆物流の効率化(商業施設での取り組み)

▼都市型複合施設内物流の効率化

《従来の物流》

企業・商店が点在



各々の運送事業者が商店や企業を縦横無人に走行し配達

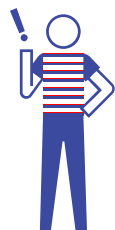
■ 配達・集荷車両の集中により発生する問題

- 駐車問題
- 交通渋滞
- 騒音・排気ガス問題



《物流の効率化を追求した都市型複合施設》

企業・商店が複合施設に集約



交通渋滞の緩和

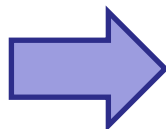
排気ガスの削減



駐車問題の解決

騒音の削減

物流の効率化



環境負荷低減

都市型複合施設での物流効率化の取り組み

例：東京ミッドタウン

ミッドタウン・タワーを中心に、オフィス、ショップ&レストラン、ホテル、美術館の5棟で構成される複合施設



■ 延床面積	
オフィス	約330,000㎡
住宅	約111,000㎡(約530戸)
ホテル	約48,000㎡(約250室)
商業	約57,000㎡

◆物流の効率化(地域での取り組み)

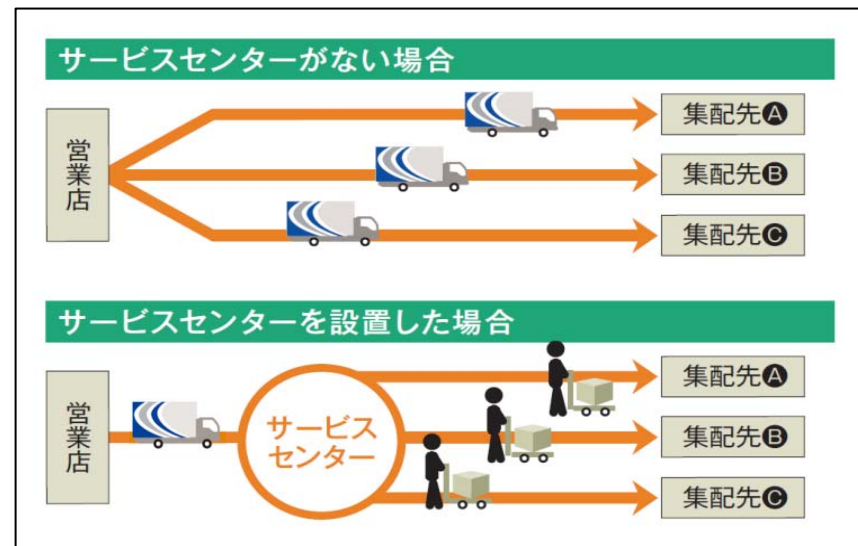
▼ サービスセンターの設置

交通量が多く駐車スペースが少ない都市部を中心に、配送車両を使用しない「サービスセンター」を設置しています。

- ・台車や自転車を用いた人力での集荷配達を行い、環境に負荷を与えない配送を実現
- ・配送車両の駐車対策と、路上駐車による交通渋滞の緩和にも貢献

都市部を中心に245カ所(2010年2月現在)

約1,000台相当の増車を抑制



◆エコ安全ドライブ

佐川急便では「エコ安全ドライブ7ヶ条」を定め、安全確保と環境にやさしい運転に取り組んでいます。

- ①環境面での効果 → 汚染物質や温室効果ガスの排出量を削減
- ②安全面での効果 → やさしい運転により、不測の事態への対応力が向上
- ③経営面での効果 → 燃料消費が低減し、コスト削減を実現



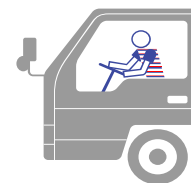
▼アイドリングストップの推進

「エコ安全ドライブ7ヶ条」のひとつ、駐車時のキー抜き(エンジン停止)によるアイドリングストップを、1997年から全車両で実施しています。キーチェーンを装着し、配達・集荷でドライバーが車から離れる際や、お荷物の積み下ろし作業中はキーを抜き、エンジンを停止させています。

➤アイドリングストップの年間効果

約3万トンのCO₂削減と約13億円の燃料費削減

※1日2時間のアイドリングストップを全車両で1年間(300日換算)で算出



◆ステークホルダーとのコミュニケーション

▼ パートナーシップの重要性

◇行政や自治体とのパートナーシップ

→物流事業者として、業界だけではなく、全体的な模範となるような取り組みを行う

◇NPO、NGOとのパートナーシップ

→消費者の代表である、NPO、NGOとの協働による、プロジェクトへの参加

◇消費者や地域の方々など社会とのパートナーシップ

→安全教室、環境教室などの環境啓発活動

自然との共生

社内への教育

自然体験学習の実施 等



**官・民・消費者
一体となった活動**



◆消費者と共に

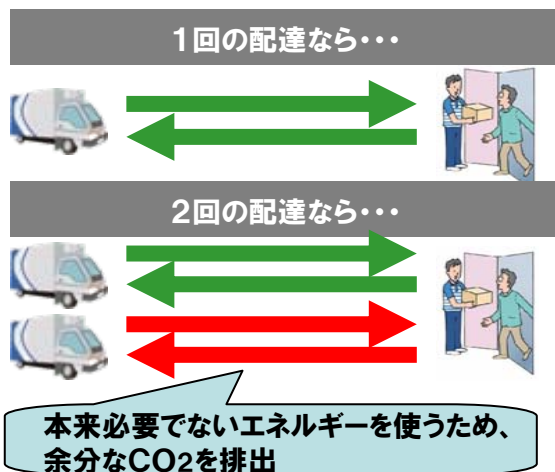
▼宅配便エコポイント制度

『eco(いいこ)とあるよ・・・』
1回目！1回で受け取ることがeco
なんですキャンペーン！！

物流企業ならではのお客様参加型の環境負荷を減らす
為の取り組みとして、実施しました。

(2007年11月21日～2009年3月20日迄)

1回目の配達でお荷物を
受け取って頂くことで不在
再配達が発生せず、余分
なCO₂排出抑制につなが
る。



参加のべ人数1,848名、再配達削減個数3,696個
→639kgのCO₂を削減

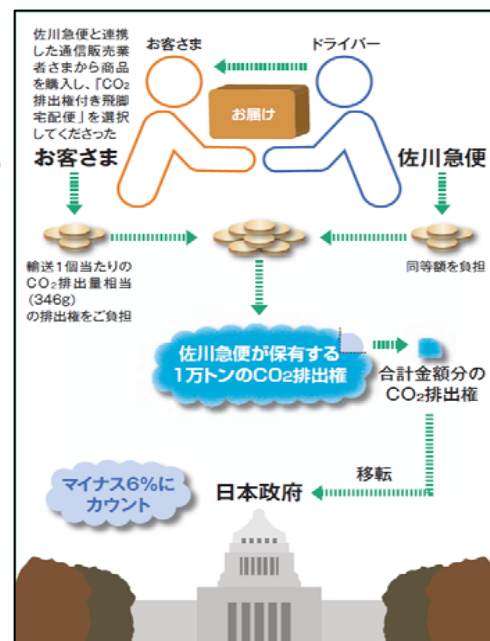
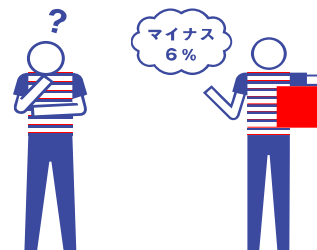
▼CO₂排出権付き飛脚宅配便

通常の宅配便料金に付加料金をプラスすることで、
CO₂排出権を佐川急便から国へ無償譲渡



譲渡されたCO₂排出権は、京都議定書で日本が削減
しなければならない温室効果ガスの「6%」分にカウント
(2009年7月に115トン分のCO₂削減に貢献)

『京都議定書で日本が約束
した温室効果ガス「マイナ
ス6%」に、消費者の立場
で貢献したいがどうしたら
いいのかわからない』とい
う声にお応えしたサービス



◆自然との共生

▼高尾100年の森プロジェクト

2007年より始まった「高尾100年の森プロジェクト」。50ヘクタールの広大な森林の保全活動はもちろん、森林活用の新しいモデルとしての可能性を追求しながら里山再生に取り組んでいます。

【森林調査】

約30名の参加者を3つのグループに分け、樹木のCO₂吸収などのデータを測定



【森林体験学習】

小学校高学年と中学生が参加して、スタンプラリーやフィールドワークなどを通じ、森林体験学習を実施



◆佐川急便 自然体験学習

「佐川急便 自然体験学習」は子供たちに自然を身近に感じてもらい、同時に田植えや草刈り、稲刈りといった昔ながらの田植え作業を通じて、自然の恵みや食物の大切さを知ってもらおうと、2007年より始めた活動です。



収穫したお米は、「飛脚米」として
田植えや稲刈りに参加いただいた
皆さんに配布しました。

2009年度収穫量 1,200kg

◆環境授業

佐川急便では小学生を対象にした「環境授業」を各地で開催しています。「物流と環境」と題して、紙芝居などを使用して分かりやすく、当社の環境活動を紹介しています。テレビや新聞などの身近な情報や社会の「環境」に対する関心の高まりもあり、子供たちの環境問題に対する意識は非常に高く、授業では多くの質問が寄せられます。



◆自然エネルギーの利用推進

▼太陽光発電システムの導入

当社では2003年度より太陽光発電システムを導入しており、現在、全国23カ所で稼働し累計500kWの太陽光発電システムを保有しています。



営業店など全国23ヶ所の施設で稼働
合計500kWのシステムを保有
年間発電量:約50万kWh

(日本の一般家庭の約140世帯分の年間消費電力量に相当)



◆グリーン購入の推進

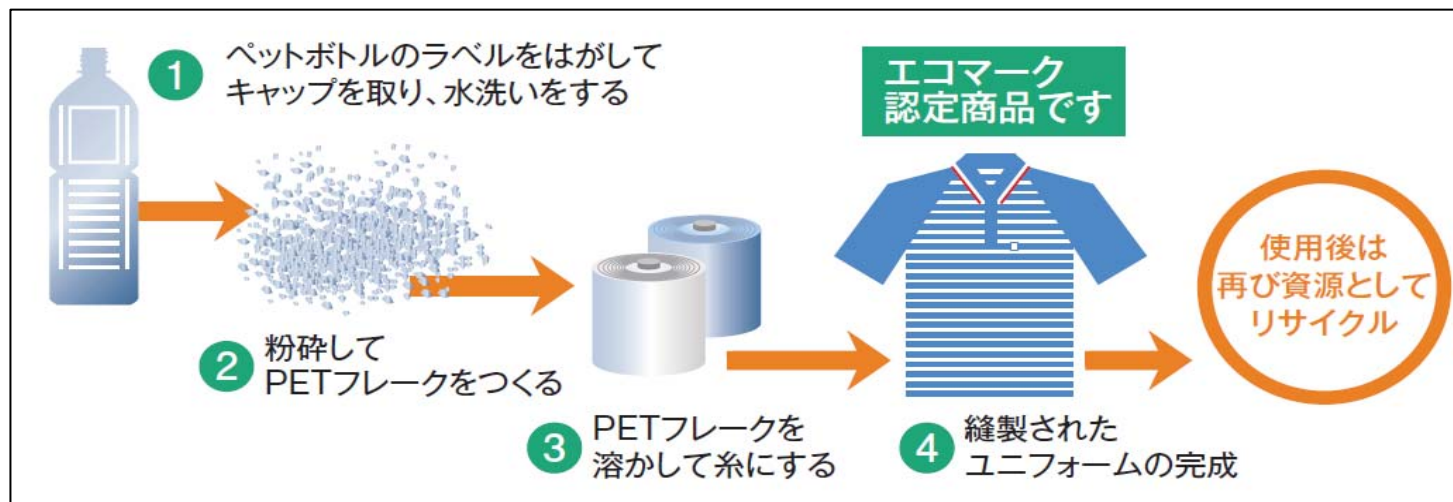
▼エコユニフォームの採用

当社では地球にやさしい製品を積極的に購入する「グリーン購入」を推進しています。ブルーのストライプでお馴染みの当社ユニフォームの素材には、ペットボトルを再利用して作られた再生ポリエステルを使用しており、エコマーク認定商品となっております。

2008年度ユニフォーム製造枚数
約22万3,000着

(換算値:半袖2.42本/枚、長袖3.76本/枚)

ペットボトル(500ml)
約65万本分を再利用





ご清聴ありがとうございました。

TRANSPORT!
COMMUNICATION
SAGAWA